

高温に対応した 水稻の栽培管理について

8月23日気象庁発表の1か月予報によると、天気は数日の周期で変わり、向こう1か月の平均気温は高い確率50%で、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

気温が高いと水稻の登熟が早く進行し、刈り遅れによる品質低下が懸念されますので、以下の対策を必ず実施しましょう。

1 水稻の生育状況

作 型	生 育 状 況
早期栽培 (4月下旬～5月上旬植え)	出穂期、成熟期とも平年より5～7日程度早まりました。成熟期を迎えており、刈り遅れしないように注意してください。
早植栽培 (5月中下旬植え)	中早生種では出穂期が5～7日早く、成熟期も早まっています。晩生種では出穂期が2～3日早まっています。
普通栽培 (6月植え)	出穂期が中早生種では5～6日早く、晩生種では2～3日早まっています。

**刈遅れに
注意！！**

※ 中早生種 : コシヒカリ、キヌヒカリ、彩のきずな
晩生種 : 彩のかがやき

2 今後の技術対策

(1) 水管理

- ✓ 出穂後20日間が高温による白未熟粒発生の危険時期です。
- ✓ 出穂期前後1週間は深水管理とし、その後は間断かん水を行い、根の活力維持に努めましょう。
- ✓ 間断かん水は3～4日おきに入落水を繰り返します。水はけの悪いほ場では、排水口を開けて強制的に落水し、2～3日田面を露出させましょう。
- ✓ 早期落水は、品質低下を助長します。落水は出穂後30日経過してから行いましょう。
- ✓ 落水時でも高温で乾燥した風の吹くときは、走水程度にかん水しましょう。

(2) 適期刈取り

- ✓ 刈り遅れは胴割米や茶米の発生が増加し、品質を低下させます。
- ✓ 高温条件下での登熟は、刈取適期が前進するので、表-1の目安よりも2～3日早刈りするよう心掛けましょう。
- ✓ 穂数が多く遅れ穂の水分が高いため、籾水分が25%に低下次第収穫を開始しましょう。
- ✓ ライスセンター等の稼働開始を生育に合わせて早め、適期収穫を推進しましょう。

**出穂後20日間は
気温に注意！！**

表-1 品種別収穫適期の目安（奨励品種特性表より）

品種名	登熟積算気温	出穂後日数
彩のきずな	早植 900～1200℃	35～48日
	普通 900～1100℃	38～48日
キヌヒカリ	早植 980～1180℃	37～45日
	普通 920～1050℃	37～45日
彩のかがやき	早植 910～1110℃	35～44日
	普通 1010～1250℃	44～58日

**こまめな水分補給と朝夕の涼しい時間での作業を心掛け、
熱中症を予防しましょう！**

